



Concert to Support the Legal Case and for the Protection and Promotion of Rights and Welfare Of Japanese-Filipino Children and Youth

Featuring Allison Opaon, a Filipino peoples' artist,
together with Japanese-Filipino kids and their
Filipina mothers to perform
"The Journey in My Mothers Arms"
with invited guest performers

July 16, 2006, Sunday, from 3:00-5:00 p.m. (Opening: 2:30)
at St. Albans Church, Tokyo, Minato-ku Siba-Koen 3-6-18
(3 minutes from 'Kamiya-cho' Station on Hibiya Line)
Advance Ticket: 1,200 yen, Ticket on the day: 1,500 yen,
Student Ticket: 1,000 yen, Below Grade 6: Free
available at:

JFC Network: Tokyo, Chiyoda-ku Kudan-Minami
4-8-34 HK Bldg. 303, 102-0074
Phone/Fax: 03 2634 4272
Email: jfcnet@jca.apc.org

SPONSORED BY:

Lawyer's Association for Confirmation of Japanese Nationality
Lawyer's Association for Japanese-Filipino Children
Citizen's Network for Japanese-Filipino Children (JFC Network)
KAFIN (Kalipunan ng mga Filipinong Nagkakaisa)
Center for Japanese-Filipino Families (CJFF)

母の腕に抱かれて旅をして.....

JFC 国籍確認訴訟原告団

チャリティコンサート

主演：アリソン・オパオン (Allison Opaon)

JFCの子どもたちやお母さんたちによる涙と笑いの寸劇あります。

どうぞお楽しみに！

日時：2006年7月16日(日)午後3時～5時(2時半開場)

場所：聖アンデレ教会(日比谷線「神谷町」下車徒歩3分 港区芝公園3 6-18)

入場料：前売1,200円、当日1,500円、学生1,000円、小学生以下無料

* 前売りチケットご希望の方はJFCネットワークまでお申し込みください。

JFC ネットワーク

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-34 HKハイム303

電話&FAX：03-3264-4272 E-mail:jfcnet@jca.apc.org

主催：

JFC 国籍確認訴訟弁護団

JFC 弁護団

(特活) JFC ネットワーク

KAFIN (Kalipunan ng mga Filipinong Nagkakais)

CJFF (CJFF)

JFC 国籍確認訴訟とは

現在の法律では、結婚をしていない日本人の父親と外国人の母親から生まれた子どもたちで、日本人の父親から出生後に認知をされた子どもは日本国籍を取得できません。そのため、結婚をしていない日本人男性とフィリピン人女性から生まれ、日本人の父親に出生後に認知をされたフィリピン国籍の子どもたち9人が、日本国籍の確認を求めて2005年4月12日に東京地方裁判所に提訴しました。2006年3月29日、「国籍法3条1項が日本人の父に加え両親の婚姻を要件とするのは憲法14条1項に反する」として原告9人の日本国籍を認める判決が下されました。国は控訴し、高等裁判所で争われることになりました。引き続きご支援を宜しくお願い致します。

アリソン・オパオン ALLISON M. OPAON プロフィール

フィリピンのミンダナオ島出身のカルチュラル・ワーカー(文化活動家)。フィリピンでは、テアトロ・パブリカ(工場劇団)、PETA(フィリピン教育演劇協会)等で社会問題をテーマにした民衆演劇、音楽活動に従事するかたわら、ストリートチルドレンや麻薬中毒の子ども、かつて米軍基地周辺で米兵相手に働いていた女性たちの自立を支えるためのNGO活動にも参加してきた。

1993年、翌94年に来日し、演劇ワークショップとコンサートを開催。その後1996年より日本在住。同年2月の「日本ネグロス・キャンペーン委員会10周年記念コンサート」参加をきっかけに、教会を中心としたフィリピン人コミュニティでの演劇活動、そこで出会った仲間たちと民族色を活かした音楽活動を本格的に開始。

1997年3月、日本語教室を舞台にした演劇「ハロハロにて」出演。同年秋に横浜、川崎でホームレスの問題を取り上げた一人芝居「タオン・グラサ(脂人間)」を上演。1998～99年にかけては、JFCの問題を取り上げた「マリーン」出演。その後もコンスタントに「川面の雲」「偽クローン人間」など、種々の社会問題に関わる演劇に出演してきた。近年では活動の場も広がり、名古屋で「人業劇団ひらき座」の舞台で客演。今年秋の上演にむけ、名古屋のフィリピン人コミュニティのために脚本執筆・演出も行っている。

滞りが長くなるにつれ、日本の家族関係の希薄さ、荒れる子どもたち、自分を開放できない若者たちの姿を目の当たりにし、文化活動の果たす役割と可能性を確信。現在、仕事のかたわら、小学校から大学、NGOや市民グループなどからの招請に応じて演劇ワークショップの進行、特に学校では国際理解教育の一環として、フィリピンの文化を伝えるワークショップ等を行っている。

2002年7月からは、自らがリーダーをつとめるバンド「ラヒン・カユマンガ(褐色の民族)」のチャリティ・コンサートやCD製作を通じて、メンバー全員の故郷・ミンダナオ島の難民支援キャンペーン活動を展開。ソロ活動も行いながら、2006年4月からは、在日フィリピン人の自助組織 KAFIN 横浜支部の代表代行を務めている。